

第3回橋本伊都社保協総会開かれる 学習講演は「全世代型社会保障の正体とは」

2019年12月14日(土)、橋本市産業文化会館で橋本伊都社保協第3回総会が開かれました。31人が出席し、総会第1部は事務局長から1年間の活動のまとめと方針の提案、会計担当から決算・予算の提案があり、拍手で承認されました。

九鬼堅代表幹事が開会あいさつを行い、「社保協が後期高齢者医療の窓口負担1割から2割への動きに対して当該議会に原則1割を求める請願を提出し、各議会で請願が採択されるという成果がうまれている。また、橋本市の水道料金値上げ問題では、市民の怒りが広がる中、かつてない運動で市議会を動かす成果をあげていると述べ、社保協も力をつけていくことが必要であり、継続的に運動をすすめていくためみなさんの協力をお願いしたいとあいさつしました。

来賓の県社保協、上野佳男さんは「国民の生活が困難に強いられている中、安倍政権は何をしようとしているのか。全世代型社会保障会議において、大企業のスポンサーとお友達だけで税と社会保障の負担をさらに軽減させていく目的で改革をすすめ、社会保障を破壊しようとするめています。社会保障がきちんと再配、分配されるようように社会保障を拡充する声を私たちの運動でかえよう」とのべました。

板垣志保事務局長からは、今後1年間の活動について、1)住民が安心して暮らせる社会の実現のため、社会保障制度の動向を注視して、国に対しては、社会保障の拡充を求め、地域では請願行動や自治体への要請や懇談などをすすめながら、地域住民の要求を実現するための共同を広げていく。2)中央社保協や県社保協の援助を受けながら、学習を強め、それぞれの構成団体が社会保障拡充のための運動をすすめていく。3)運営委員会、事務局会議の民主的運営をすすめながら、社保協の運動をひろげ、地域住民、構成団体に社保協の活動を知らせていく。などの提案がされました。

第2部は、中央社保協事務次長の是枝一成氏が「全世代型社会保障の正体とは」をテーマに学習講演を行いました。是枝氏は、和歌山の地域医療の崩壊、後期高齢者医療75歳以上の窓口1割から2割負担への動き、介護保険改悪、年金問題など安倍内閣がすすめる全世代型社会保障の内容を詳しく述べました。社会保障が破壊される中、そのたたかひのスタンスとして、憲法25条をしっかりと理解し、権利としての社会保障に確信をもって運動をすすめること、日常の医療・介護、福祉活動での具体的な事例を共有し問題点を可視化し、解決していく運動を積み重ねていくこと、具体的な政策づくりで国や地域の政策を転換していく運動が社保協に求められていると述べました。



橋本・伊都社会保障推進協議会役員

<代表幹事>

松浦憲信 橋本・伊都民主商工会会長
山本富代 新日本婦人の会伊都支部支部長
古倉伸二 橋本市生活と健康を守る会会長
九鬼 堅 全日本年金者組合伊都支部支部長
東芝弘明 日本共産党紀北地区委員会委員長
窪田憲志 橋本市職員労働組合委員長

<事務局>

事務局長 父川恵照(全日本年金者組合伊都支部)
事務局員 板垣志保(新日本婦人の会伊都支部)
佐無田義巳(橋本市生活と健康を守る会)
阪本久代(日本共産党紀北地区委員会)
玉置元成(橋本・伊都民主商工会)
村越伊久男(全日本年金者組合伊都支部)

<会計監査>

内藤 守(全日本年金者組合伊都支部)
三嶋 崇(橋本・伊都民主商工会)